



syounankai

松楠会報

第50号



巻頭挨拶

明日に向けて 引き継ぐべきもの

このたび、橋本正範前会長ご勇退の後を継ぎ、松楠会会長を仰せつかりました。私こと、昭和36年3月学芸学部卒。支部活動への気まぐれな参加以外、松楠会活動への参画は、創立120周年記念事業準備委員以降で、もとより若輩・微力であります。松楠会の一層の充実発展に、誠心誠意尽くしたいと思っています。

いま、東京オリンピック2020夏季大会の招致活動が繰り広げられています。東京招致へのプレゼンテーションの理念・戦略は、「WHY&HOW」(なぜ、そして、如何に)で、感性と理性の両面から訴えようと戦略を練った…とされています。

「なぜ、如何に」は、時代とともに変わります。先輩から後輩へ引き継ぐものも質が変わります。私たちは後輩に、何をどう引き継ぐのか…見直し、引き継ぐべき松楠会を、皆さんと共につくっていききたいと思えます。歴代会長さんからの教えとして、

故 東原岩男 元会長「いま、松楠会の存在の意義や活動の見直しが求められ、専門集団としての特色を生かす活動を押し進める取組みが課題…。」

松楠会会長 岩島 卓男



宮崎正夫 元会長「支部それぞれの活動を展開している中、教員以外への進出者、価値観の多様化など、会の運営や活動の難しさへの取組みが、いま課題…。」

橋本正範 前会長「卒業生数減、会員減、予算が非常に厳しい中で、次世代に向けた事業の精選・重点化、改善への取組みが、いま課題…。」等々、果敢に取り組みました。

事務局、各支部の熱いエネルギーのもと「活動の質を問う」を視点に歴代会長の思いを継承したい、松楠会の熟成を期して後輩に引き継ぎたい、と思いを馳せています。

120周年記念事業時の有馬道久先生の言葉、「松楠会は…時空を越えた共生ネットワークの仲間づくり」を胸に秘めて、過去を懐かしみ明日を想う源、共生、激変する母校を裏から支える仲間づくりに取組みたいと考えています。今後とも、一層のご支援ご協力をいただけますようお願いする次第です。

退任の ごあいさつ

前松楠会会長 橋本 正範



この会報が皆様が届くころは、緑濃く初夏の候と存じますが、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私こと、この度、松楠会会長を退任することとなりました。振り返れば、平成16年に監事に就任し、その後、副会長兼松楠会創立120周年記念実行委員長、会長を歴任いたしました。この間、香川大学学長 長尾省吾先生、同理事 有馬道久先生、教育学部長 山神眞一先生、前理事長 岡田順直先生、理事長 佐藤明宏先生、事務局 岡田尚子様には格別のご高配をいただきお陰で、どうにか職責を果たすことができました。心から感謝申し上げます。

同窓会は、緩やかなまとまりであるためか、支部の事業等に参加する者が必ずしも多くありません。しかし、会員同士は、生涯切れない縁で結ばれているのですから、まずは支部の事業に参加することから相互の交流を深めましょう。せっかくの縁を大切にしたいものです。

ところで、母校香川大学および教育学部は、現在変動の最中にあります。大学法人化からくる諸問題、少子化に起因する諸問題、その中でも特に財政面での課題があります。それに対して松楠会として、どのように支援できるかということに心を砕いてまいりました。しかしながら、学生の定数減少の恐れありとする現状では、松楠会自体の事業充実の課題もあります。そのため十分な支援ができなかったことを残念に思っています。皆様の一層のご健勝を祈念いたします。



館銘板の設置を記念して(教育学部玄関前にて)

松楠会報 第50号を記念して

教育学部長 山神 眞一



紫陽花の花の色合いに季節の変わり目を感じる頃となりました。松楠会の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。常日頃より、教育学部の教育・研究活動等全般に対しまして、格別のご厚情を頂き、誠にありがとうございます。

私は、昭和55年3月本学部卒の松楠会の会員の一人です。一昨年(2019年)の10月より学部長として母校の舵取りをさせて頂いております。現在は、平成27年4月スタートを目指して、新しい教育学部構想に日々取り組んでいるところです。母校の発展となる改革に邁進するつもりです。どうかご支援を宜しくお願い申し上げます。

さて、平成25年度になり、学部教員に新しく5人の先生方をお迎えすることができました。その中で、片岡元子先生と植田和也先生は、本学部の卒業生であり、片岡先生は、義務教育課主任指導主事から幼児教育講座に、また、植田先生は、東部教育事務所所長補佐から附属教育実践総合センターに、それぞれ准教授として着任されました。お二人の先生方の本学部での益々のご活躍を心より祈念しております。

ところで、教育学部は、幸町キャンパスの北側にあり、旧国道11号線沿いに正門があるのをご存じでしょうか。教育学部正門から南を見ますと、「香川大学教育学部」という大きな銘板が掲げられていますが、これは、昨年度完成したものです。また、丸い池周りもアスファルト舗装して、綺麗になりました。昨年度の卒業式の折には、記念写真の場所としても多くの研究室の学生さんが使用してくれました。教育学部の玄関周りをリニューアルしたことで、普段から学生さんはもとより、教職員や地域の人たちも頻繁に利用してくれるようになりました。このことにつきましては、教育学部内の松楠会のホームページで詳しく紹介しておりますので、ぜひご覧下さい。

最後に、近年の卒業生の教員採用率が大幅に伸びています。また、教育関連の就職も好調です。香川大学教育学部の卒業生に社会で大いに活躍してもらえよう今後とも母校発展のために精一杯努力してまいりたいと思っております。松楠会の皆様には、どうか変わらぬご支援とご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。松楠会報第50号記念のご挨拶とさせていただきます。

母校教員の異動

退職

平成24年 9月30日	教授(転出)	松本 康	信州大学へ
平成25年 3月31日	教授(定年)	池田 清史	
	教授(定年)	鈴木 政勝	H25.4.1付け名誉教授
	准教授(転出)	片田江綾子	文部科学省へ
	准教授(転出)	室井 研二	名古屋大学へ
	准教授(転出)	山下 真弓	高松市立下笠居小学校教頭

昇任

平成25年 4月1日	教授	坂井 聡
	教授	妹尾 理子
	教授	轟木 靖子
	准教授	青木 高明
	准教授	岡田 涼
	准教授	篠原 渉
	准教授	前盛ひとみ
	准教授	山内 玲

退職教員より



お世話になりました

鈴木 政勝
(幼児教育講座)



この3月に定年退職を迎えたと思えば、早いものでもう梅雨入り。紫陽花の花の美しい季節になりました。

松楠会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様のご協力のおかげで、香川大学教育学部において20年の長きにわたって、幼児教育の研究と教育に従事することができました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

退職して一ヶ月間は、大学の研究室から持ち帰った書物と資料の整理に追われました。連休にはいと、教育学部幼児教育コースの卒業生、十数名が、2、3人ずつ連れだって、我が家をたずねてきてくれました。中には、卒業後5年たった今年をはじめたずねてきてくれた卒業生もいます。在職中も多くの卒業生が研究室をたずねてきてくれましたが、忙しさに追われ、十分に話を聴くことができなかつたように思います。卒業生は、現職の幼稚園教諭として、あるいは保育士として、子どもにかかわっていますので、自分のクラスのことについて、子ども一人一人のことについて話してくれます。さらに、これまでの自分の子ども理解を振り返り、一人一人をより深く理解していこうとしていること、また、自分のこれまでのかかわりを振り返って、よりよいかかわり方を考え出していこうとしていることを、話してくれます。こうした卒業生の、悩みながらも頑張っている姿に、また、少しずつではあるが保育者として着実に成長している姿に触れることができることは、退職し十分な時間をもつことができるようになった今の私にとって、大きな喜びの一つになっています。

香川大学教育学部に赴任してきたとき、瀬戸内海の、どこまでも青い海、海中からほっこりとつきでた小島、大きく赤々と沈む夕陽、の美しさに魅きつけられました。土、日になるのを待ち構えては、家族とともに、車でかけました。夕陽の美しい仁尾の父母が浜まで足を伸ばしたこともあります。しかし、日々の忙しさに追われるようになり、半年ほどで中断してしまいました。退職し、

時間的に余裕ができましたので、瀬戸内の美しさを求める旅を再開したいと思っています。しかも、今度は、自動車ではなく、自転車で。先日、さっそく、高松駅から讃岐浜街道を通って屋島の遊歩道に至るサイクリングロードに挑戦しました。これからさらに、瀬戸大橋や小豆島のサイクリングコースに挑戦し、瀬戸内海の美しさを心ゆくまで満喫したいと思っています。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

近況

池田 清史
(美術教育講座)



彫刻を専門にしていますので、図書のほか道具などの荷物が沢山あります。3月は諸々の手続きなどで慌ただしく、退職後の4月になってからゆっくり片付けようと思っていました。時間はあるしのんびりできるとしていました。

4月になると仕事?の依頼がぼろぼろとやってきました。退職したから暇だろうとお思いのようで、仕事といっても自治会のとりまとめ、倉石先生が中心になって行っている山並み芸術祭の手伝い、香川県展の審査、香川県デザイン協会の副会長の継続で総会やら理事会。どれも打ち合わせなどの会合ですが、結構入って来て家がない日が多いのです。退職したら家にいて、乾漆と呼ばれる漆を用いた小さな彫刻や用具を作って暮らそう、手で物を作ることを子供たちに教えながら暮らそうと思っていました。しかし今思いと異なり。悠々自適とは行きません。

で、家の片付けはとなると、取り敢えず家に運んだ段ボール箱の中身を確認し、あっちこっちに箱が移動するばかりで荷物が散乱するばかり。本や道具だけなら良いのですが、思い出の写真や手紙が出てきたらもう大変、今までしていた作業を忘れて他ごとに移ってしまいます。片付けなければならないのに却って散らかってしまう、そんな何にも進まない日がおよそ2ヶ月経過しました。思うに、勤めていた長い日々に蓄積されたものは膨大で、簡単に片付くと思っていたのが間違いでした。

夏に入りかけた今、段ボール箱の整理を衣替えに合わせて始めました。そのためには仕事場の整理です。仕事場の整理には道具類の整理。道具類の整理にはそれを置く棚作り。新しい環境作りを緩やかに始めています。

採用

平成25年 4月1日	准教授	植田 和也	香川県教育委員会事務局より
	准教授	片岡 元子	香川県教育委員会事務局より
	准教授	谷本里 都子	坂田市立東部中学校より(香川県との人事交流)
	講師	池田 恭哉	
	講師	小森 博文	兵庫県立大学大学院生命理学研究科より

併任

平成25年 4月1日	附属高松小学校長	小川 育子
	附属坂出小学校長・附属幼稚園長	松村 雅文
	附属特別支援学校長(継続)	武蔵 博文
	附属教育実践総合センター長(継続)	七條 正典
	教育研究評議会評議員(継続)	加野 芳正

称号付与

平成25年 4月1日	附属教育実践総合センター 客員教授(新規)	松井 保
	附属教育実践総合センター 客員教授(新規)	石川 恭広

訃報

南 哲男 (前丸亀支部長)	平成24年 9月25日	ご逝去
間嶋 潤一 (教授)	平成24年11月 6日	ご逝去
植松 茂暢 (名誉教授)	平成25年 2月16日	ご逝去
伊澤 宏 (名誉教授)	平成25年 5月13日	ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

丸亀支部 marugame



平成24年度の丸亀支部総会は、8月19日(日)13:00より、丸亀市生涯学習センターで開催しました。本部から森美智子副会長、山下真弓学内理事を来賓に迎えました。

米寿の会員に記念品贈呈、23年度の事業報告、決算報告、監査報告、24年度の事業計画・予算案審議と、とどこおりに進行了。総会のあとは、「家庭にあるもので、おもちゃを作る。」と題して、前田伸雄支部長が発案した昔なつかしいおもちゃを作りました。ストローを蛇腹部分の上と下から切り、上の部分はヘリコプター(息吹き上げ型の風車)、蛇腹部分はガリガリトンボ、蛇腹部分から下の部分を4.5cmと2cmに切ったものとせんたくばさみで、4枚羽根の風車を作りました。皆、童心に返った楽しい時間でした。

続いて行われた懇親会も、同期生、先輩・後輩の別なく、思い出話を語って、過ごしました。楽しい半日でした。

前田 伸雄(学芸・昭和40年卒)

小豆支部 syozu



平成24年度松楠会小豆支部総会は、8月19日(日)に土庄町にあるリゾートホテル・オリビアンで開催されました。17名の会員が出席し松楠会本部から小豆支部担当の大西えい子理事長のご出席を賜り盛大に行われました。総会では前年度の事業報告、会計決算報告、本年度の事業計画について審議し、承認されました。

総会に引き続いて朗読会『二十四の瞳』をピアノがあるホテルのロビーで行いました。朗読をして戴いたのはかつてバスガイドをしていたことがある女性11名のボランティアグループの方たちです。子供役を担当する8名の方は映画と同じような緋の着物を着て登場しました。

ナレーター「十年をひとむかしというならば、この物語の発端はいまからふたむかし半もまえのことになる。」冒頭の朗読によってわれわれ聴衆は壺井栄原作の小説『二十四の瞳』の世界に導かれて行った。教室で大石先生が出席簿を開いて教壇を下り「さ、みんな自分の名前を呼ばれたら、大きな声で返事するんですよ、先生、早くみんなの名前覚えてしまいたいからね、岡田磯吉君！」これらの言葉はわれわれに昔懐かしい高峰秀子主演の映画のシーンを思い出させてくれた。「ふるさと」や「七つの子」などのピアノ演奏のバックミュージックの調べはわれわれの心に郷愁を抱かせ、こころを安らかにさせてくれた。時は流れ、大石先生は出征して行く教え子たちに「名譽の戦死などしなさんなよ」と声をかけ、祈る気持ちで船を見送る。さら

に4年の歳月が流れ終戦を迎え、翌年再び教壇に立った大石先生は、生徒の中にかつての教え子の子どもを見つけ涙にくれた。

そしてラストシーン、同窓会が行われる料亭で大石先生は、涙を拭きながら、みんなに取り囲まれて、写真をみている。そこで、磯吉は「この写真は見えるんじゃ、な、ほら、まん中のこれが先生じゃろ、その前にわしと竹一と仁太が並んどる。先生の右のこれがマアちゃん、こっちは富士子じゃ、マッちゃんが左の小指を一本ぎり残して、手をくんどる、それから」浜辺の歌を歌っているマスノの目から涙がこぼれる。

朗読が終わったとき、私たちは深い感動に包まれていた。大石先生は生徒十二人に深い愛情を注ぎ、一方子どもたちは心から先生を慕い、そして先生と生徒の絆が時とともに深まっていく物語に私たち聴衆は心を揺さぶられた。

朗読会が終わったあと、出演者と出席会員みんなで「オリブの歌」「二十四の瞳」を合唱し、その余韻を味わった。

朗読会終了後、別室に移動して懇親会を開きました。来賓の大西理事長様のご挨拶、乾杯とつづき、会員みなさまの現状報告や県下の情勢、思い出話などで終始和やかなひと時をもつことができました。そのなかで、会員の森八十市先生は高峰秀子主演『二十四の瞳』の映画の撮影シーンの思い出を、上田行雄先生は田中裕子主演の映画の撮影エピソードを話しました。両先生は映画『二十四の瞳』は教師と子どもとの間の師弟愛の物語と捉えても、反戦思想を滲ませた物語としても史上最高の映画だと高く評価していました。

小豆支部の平成24年度の会員は現職77名、OB110名の計187名です。今後とも、現職会員との連携を深め、先輩の先生方や本部の皆様のご指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営をしていきたいと考えています。

三木 吉昭(学芸・昭和39年卒)

木田支部 kita



平成24年度の木田支部の主な活動は、6月の役員会の実施と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月24日の総会はトRESTA白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より森美智子副会長様、大西えい子理事長様にご臨席いただき、ご挨拶をいただくとともに、ご指導やご助言をいただきました。また、総会後の懇親会では昼食をとりながら、久々に顔を合わせた会員同士で近況を報告したり、昔の思い出話を花を咲かせたりして、楽しい一時を過ごすことができました。午後からは会場をサンサン館みきに越し、木田教育会との共催として教育講演会を開催しました。講師は宇高連絡船の元船長であり、切り絵作家である萩原幹生氏をお招きしました。宇高航路の歴史や紫雲丸事故、連絡船の船長としての苦労話、さらには切り絵の技法や素晴らしさ等にも話が及び、大変有意義なものとなりました。教育講演会には現職の幼稚園・小・中学校の教職員にも声をかけ、百名を越す参加者がありました。今後も会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶ機会を企画していきたいと考えています。

森 正彦(教育・昭和56年卒・三木町立氷上小学校)



仲善 支部 tyuzen

年2回！歌って踊って確かめ合って



楽しい、うれしい、よかったと参加者の表情は満足感にあふれています。友と語り合って得た高揚感が今からの自分のあり方を約束しているようです。

私たちの集会は、みんなの創意によって「仲善タイプ」が出来ています。即ち①夏の総会における全員の竹工作体験 ②新年祝宴での大先輩の舞踊や詩吟 ③会合ごとの即席カラオケコーラス隊の編制などです。仲善支部で創作した「松楠同窓生の歌」(高校3年生の替え歌)♪の大合唱は仲間意識をさらに盛り上げていきます。

来賓を含め、全員で楽しむ夏の竹工作は次のようです。

恒例になっている竹工作は、一人の会員が特技を生かし一年前から部品の準備をしてくれています。参加者はそれを貼り合わせたりつなぎ合わせたりして完成です。同じ作品になるはずですが、各自の個性が出るのが面白いところです。



森江 照 (学芸・昭和33年卒)

神奈川 支部 kanagawa

神奈川支部の不安

以前新聞で《地方の山間部の集落では、高齢者多くなり昔からの地区行事の機能も十分にできなくなりつつある。また、農地の耕作放棄が増えてきている》という記事がありました。

振り返って、神奈川支部も高齢化が進んでいます。つまり、この近年新会員がほとんど増えていません。たまたま一人の方が就職しても、2年から3年以内で実家に帰省したり、転居したりして、あて先不明になってしまいます。

ですから、本部からの会報と支部の会計報告を兼ねた支部便りを会員に郵送するだけの活動になっています。昨年度も今年度も、新規採用者は0名でした。

宇條 建郎 (教育・昭和44年卒)

兵庫 支部 hyogo

兵庫支部は、紫雲会の名のもと、年1回の定期総会を開催しながら同窓の会を続けています。24年度の総会は15名の参加がありました。また、山神教育学部長様のご臨席をいただき、参加者一同大変光栄に思いました。初めて参加した60歳代の先輩、20歳代の若い方の参加があり、和気藹々と会が和やかに進みました。



さらに、昨年に続いて若い会員を対象にした懇親会も開催しました。役員を含めて12名の参加でした。若い会員に人

とのつながりの大切さ、ありがたさを感じてもらえばと思います。

さて、兵庫県下は広い、姫路方面の先輩より、会場を姫路に希望する方々もいらっしやいます。今後、県下各地での世話係等をしていただく方を見つけて、幅広い活動を目指したいです。また、支部だよりを年2回発行できるように考えて広報もしていきたいと考えています。さらに、若い方が参加しやすい会の運営を考えたいです。参加していない方にとっては、ハードルが高く、参加に二の足を踏む方もいらっしやいます。課題は山積していますが、一歩ずつ前進して、会員みんなの紫雲会にしていきたいです。

平成25年度の支部総会は、6月22日(土)に行いました。

兵庫支部役員 (紫雲会)

- | | |
|------|--|
| 支部長 | 池内 幹夫 (昭和46年卒) |
| 理事 | 木岡 正雄 (昭和48年卒) |
| 評議員 | 大坪恵美子 (昭和49年卒) 宮崎 謙 (昭和50年卒) |
| 支部委員 | 大坪 和洋 (昭和50年卒) 須加多由雄 (昭和55年卒) 宮本早夕里 (昭和61年卒) |
| | 山川 寿夫 (昭和62年卒) 渡辺 一功 (昭和63年卒) 松下ひろみ (平成15年卒) |
| | 松下 明申 (平成16年卒) ※以上のメンバーで運営します。 |

木岡 正雄 (教育・昭和48年卒・一般社団法人兵庫教育会)

岡山 支部 okayama

私にとっての松楠会



8月19日(日)、定例の支部総会には本部より、佐藤理事長と山下学内理事のご出席をいただき、諸議案の承認に続いて、支部会員が講師となった講演会「最近の青少年にかかわる現状」が行われた。現役・OB共に己の在りように心を巡らし、課題意識を高めたひと時であった。

また、平成24年度には支部活動に「登山ハイキング」が加わった。前年度の支部講演会「登山のすすめ」講師からの提案がきっかけだ。自然に親しみながら、少し負荷を加えて歩くことは健康維持・増進に最適である。記念すべき第一回山行は、11月18日(日)紅葉の中、総社市清音の幸山(こうざん)城址から福山(ふくやま)城址への「幸福の道コース」。様々な事情から5名での実施となったが、継続することで今後の盛況を期待したい。ちなみに私は、還暦を迎えた現在、二つの登山サークルに属し、平均週一回以上の山行を楽しんでいる。大学時代に学友に誘われて始めた山歩きが原点だ。

青春時代の様々な体験を糧として現在の自分がある。松楠会の集いでは、青春・高松・香川大学・教育学部・・・等の共通項のもと、先輩後輩の垣根を越えて、互いのハートを共鳴させて交流ができる。己の原点に帰帰し、交流の中からの刺激も得て高揚感を湧き立たせる、そのような松楠会の場を大切にしていきたいと思う。

☆岡山支部講演会・総会・懇親会

平成25年8月17日(土)12:00～16:00 ピュアリティまきびにて支部創立20周年記念講演会「名画の謎と真実～「モナ・リザ」の謎～:講師 西崎泰豪 画伯」を開催予定

☆岡山支部登山ハイク 平成25年11月10日(日)

岡山市内「操山(169 m)」一帯にて 奥市護国神社 集合 横山 茂樹 (教育・昭和51年卒)

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高松支部	761-8084	高松市一宮町 672-1 高松市立一宮小学校	高木 一*
丸亀支部	763-0051	丸亀市今津町 348 丸亀市立城坤小学校	岩井 俊明
坂出支部	762-0031	坂出市文京町 1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	佐藤 美芽
大川支部	769-2101	さぬき市志度 727 さぬき市立志度小学校	多田 敬三*
小豆支部	761-4152	小豆郡土庄町黒岩 729-1	三木 吉昭
木田支部	761-0702	木田郡三木町平木 710-1 三木町立平井小学校	横手 誠
香川支部	761-1612	高松市塩江町安原上東 365 高松市立塩江小学校	鎌田 章司
綾歌支部	769-0102	高松市国分寺町国分 14-6	岡内 尊重
仲善支部	765-0012	善通寺市上吉田町 78	小亀恵美子*
三観支部	768-0060	観音寺市観音寺町甲 1186-2 観音寺市立観音寺南小学校	三野 正
東京支部	279-0022	千葉県浦安市今川 4-12-28-1	菊池 健二
神奈川支部	253-0111	神奈川県高座郡寒川町一之宮 3-38-8	宇條 建郎
愛知支部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根 99-24	古田三千年
大阪支部	567-0884	大阪府茨木市新庄町 6-9	信垣 綾子
兵庫支部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台 4-7-20	木岡 正雄
岡山支部	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷 647-32	横山 茂樹

松楠会基金の会員表彰制度をご存じですか？

本を出版されたり、発表会・展示会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした会員の方々を表彰しております。該当者は、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、情報をお持ちの方もご一報を！

●平成24年度松楠会会計決算報告

●平成25年度松楠会会計予算

単位:円

平成24年度 松楠会支援事業

●「冒険塾（全4回）」（代表 栗林おやじ塾 事務局長 溝内哲也）

平成24年度 学生支援事業

● わくわくコンサート（平成25年2月3日 サンポートホール高松）
● 未来からの留学生（平成24年10月14日 香川大学幸町キャンパス）

●平成24年度松楠会基金決算報告

●平成25年度松楠会基金予算

平成24年度 表彰者

- 佐藤 明宏
- 細川 義治
- 中井みどり
- 佐藤 明宏編著

『国語科研究授業のすべて－教材研究・指導案・教育実践－』出版

『家庭で作る加工食品ガイド』出版（香川支部より推薦）

『戦時中の山の子供「ドン損の記」』出版（香川支部より推薦）

『特別支援の子どもの言語力をどう育成するか

－スクリーニングテスト出題の実例とバイパス教材による指導のヒント－』出版
世界物理教育学会（イスタンブール）にて発表

平成24年度 助成者

- 森 真佐純

平成26年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1)企画書 (2)予算見積書 (3)その他参考資料等
- 3 応募締め切り…………… 平成26年1月31日
- 4 提出先及び問い合わせ先 … 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス：syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL：087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回目までとします。選考結果については2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会（香川大学教育学部同窓会）の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または、報告書に添付して提出してください。

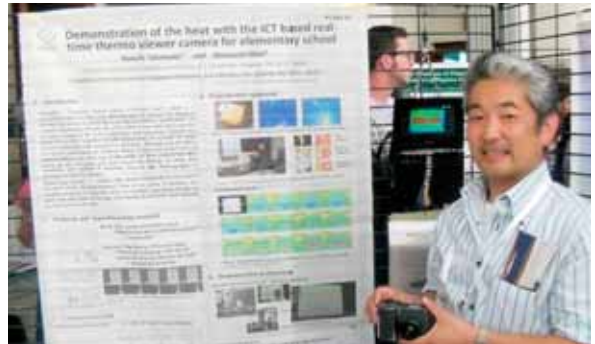


「もののあたたまり方」の研究

香川大学教育学部附属坂出小学校 教諭 森 真佐純

私は、平成2年3月に香川大学教育学部特別教科理科教員養成課程を卒業して以来20年あまり、理科を研究教科として小学校で教育実践を行ってきました。今私が興味をもって取り組んでいる課題の一つに、香川大学教育学部の高橋尚志教授を中心に共同研究している「もののあたたまり方に対する子どもの概念」があります。これは一般に知られている私たちの常識を一新する研究であると考えています。

昨年、第6学年を担当していた時のことです。子どもたちは第4学年において、ビーカーに入った水をアルコールランプで熱し、水があたたまっていく様子を学習しています。その際、温度計やサーモテープを使ってビーカーの上部、下部の温度を測ったり、おがくずの動きで、水の動きを確認したりして、「水や空気はあたためられると上に動き、上にある温度の低い水や空気は、下に動く。このように水や空気は、動きながら、全体があたたまっていく」とまとめます。そのとき説明に使うのが図1です。6年生の子どもたちはこの図を使って水のあたたまり方を説明し、ペーパーテストにおいても正しく解答できました。この時点では、私たちも正しい概念が育っていると考えていました。



WCPE2012でのポスター発表

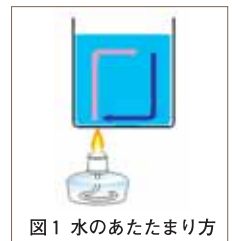
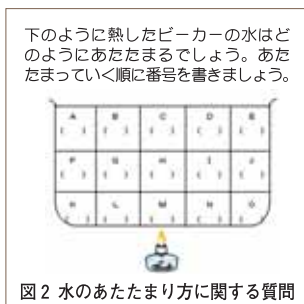


図1 水のあたたまり方



下のように熱したビーカーの水はどのようにあたたまるでしょう。あたたまっていく順に番号を書きましょう。

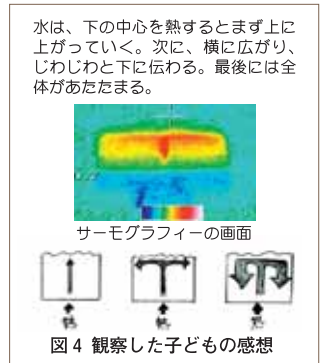
図2 水のあたたまり方に関する質問



図3 子どもたちに見られた考え

ところが図2を示し、水のあたたまっていく順番を尋ねると、かなりの数の子どもが図3のように答えました。つまり、ビーカー中央部にあたるGやIの部分が最後にあたたまると答えたのです。「対流」と「水のあたたまり方」を混同しているのではないかと私たちは考えました。そこで、この概念を修正するために、高橋教授が考案された「サーモグラフィーを用いた演示実験」を実施しました。水があたたまっていく様子をモニターに映る色の変化で表現する実験装置です。熱源によって熱せられた水は最上部に移動します。そして、上から下へ順にあたたまっていき、最下部が最後にあたたまります。これは、子どもたちが予想した結果とは全く違っていました。その様子を確認した子どもは、驚きの声を上げ、ジェスチャーを使って水のあたたまり方を表現しました。

この研究内容は昨夏、松楠会に支援いただき参加した、イスタンブールでの WCPE2012 (World Conference on Physics Education 2012) ポスターセッションにおいて、



水は、下の中心を熱するとまず上に上がっていく。次に、横に広がり、じわじわと下に伝わる。最後には全体があたたまる。

サーモグラフィーの画面



図4 観察した子どもの感想

「もののあたたまり方に関する考察 - 子どもの誤解を解くための教材開発 -」として高橋教授と一緒に発表させていただきました。本年度も継続して研究に取り組んでおり、8月にはチェコで開催予定の ICPE2013 (International Conference on Physics Education 2013) において、ポスター発表を行う予定です。

私たち理科教員は「理科好きな子どもを育てること」が使命であると思っています。子どもが自然を体験する機会を十分に確保し、実験観察を通して身近な自然現象を豊かに感じることができるよう、これからも教育実践に取り組んでいきたいと思っています。

松楠会ホームページ <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>

編集後記 ■ ■ ■

- 今回は、会報50号記念ということで、本学教授 小西憲一先生作の題字を、特別カラーに変更し
- 作成致しました。松楠会報が、現在の体裁 (A4サイズ・横書き・カラー) になり、3年になりました。今後も、会員の輪が広がり、絆が深まるよう、皆様のご意見を取り入れながら、楽しい同窓会活動の情報をお届けしていきたいと思っています。また、松楠会ホームページは今年度、刷新される予定です。ご期待下さい！

松楠会報

第50号

発行日 平成25年7月20日

発行人 岩島 卓男

佐藤 明宏

編集 碑田 美嘉

植田 和也

大浦みゆき

高橋 智香

塩井 実香

香川大学教育学部同窓会 松楠会